

## 第二言語習得の単純論

ゲーブリエル・A・リー

### 研究の目的

第2言語 (L2) 熟達度の正確な予測モデルの作成。

### 研究の背景

Hoover & Gough (1990)は、読解 (reading comprehension) を解読 (decoding) と聴解 (listening comprehension) の2つの部分に分けて考え、The Simple View of Reading と呼ばれる単純なモデルを提案している。このモデルによると、読解 (r) は解読 (d) と聴解 (c) から成るものの、 $r=d+c$  ではない。なぜなら、d も c もゼロの場合は  $r>0$  という現象は考えられないからである。つまり、d か c がなければ、r もないということである。そのため彼らは、 $r = d \times c$  という定式を考える。この式に従えば、読解が成り立たない事例は3つのケースに分類される。すなわち、(1) 読解に欠陥がある場合、(2) 理解に欠陥がある場合、(3) 読解と理解の両方に欠陥がある場合、である。

多くの研究者はさまざまな証拠から、この Simple View of Reading というモデルの正しさを主張している。ただし、今までは英語母語話者を対象にした研究しか行っていないので、第2言語としての英語学習者の熟達度を予測するモデルとしては最適かどうかは疑問が残る。

Carver (1993)は、Rauding と The Simple View という二つのモデルを併せた、The Simple View II を提案している。このモデルによると、読解は読解効率 (reading efficiency or e) で、正確さ (accuracy or a) と速度 (rate or r) から成る。つまり、 $e = r \times a$  の a (accuracy) は正確さと呼ばれるが、これは語彙力と考えられる。なぜならば、読解問題に答えるとき、本文にわからない単語があればあるほど正確に答えにくいからである。この概念は

The Simple View の reading comprehension (r)と似ている。なぜならば The Simple View II によると  $\text{accuracy} = \text{oral vocabulary} \times \text{pronunciation ability}$  だが、The Simple View によるとこれが  $\text{listening comprehension} \times \text{decoding}$  になる。その一方で、r (rate)は新概念で The Simple View がない。これは読む速度と呼ばれる。知らない単語や文法がないときの読む速度のことである。

Carver のモデルによると、読解と聴解の根本的なプロセスは同じであるが、1つの違いを挙げることができる。読むときは読む速度を調整できるが、聴くときは相手の話す速度で聞き取ることはできないということである。

Hirai(1999)は Carver の仮説に基づいて読解と聴解を「速度」という共通尺度で比較し、その関係を調査している。この研究によると、英語熟達度の上位群では、彼らの最適速度を測定することができ、読解能力と聴解能力の相関がかなり高い。さらに、英語熟達度と読解能力、英語熟達度と聴解能力の相関も高い。したがって、英語熟達度が高いほど、読解と聴解が比例して速くなる。また、彼らの読解、聴解の速度はほぼ同じで 140Wpm であった。この結果から、読解と聴解は相互に作用し合っている関係にあることが裏付けられる。それゆえに、Carver のモデルも裏付けることになるであろう。

### 仮説

読解効率 = (正確さ + 速読力) / 2 という数式で測定できる。つまり、単語力と速読力だけで英語熟達度 (英語効率度) が予測できるということである。

### 実検被験者

n = 30 人、全員 1 年生

### 実検方法

1 週間目は速読のテストを実施し、2 週間目は語彙テストを実施した。その

1ヶ月後に全員 PRE TOEFL テストを受けた。

### 実検材料

Construct	Test
Language Proficiency 熟達度	PRE TOEFL (ttl) PRE TOEFL テスト
Rate Ability 速読力	Speeded T/F (ttf_ttl) ○×で答える問題の速読テスト
Accuracy Ability 正確さ/単語力	Nations Word Level Test (new_nation) ネーションレベルテスト

### 分析

		Analysis of Variance			
			DF	Sum of Squares	Mean Square
Multiple R	0.7729				
R Square	0.5973				
Adjusted R Square	0.5675	Regression	2	1807.66162	903.83081
Standard Error	6.7182	Residual	27	1218.63838	45.13475
F =20.02516	Signif F = 0000				

Variable	B	SE B	Beta	T	Sig T
NEW_NATION	0.305	0.130	0.353	2.351	0.0262
TF_TTL	1.480	0.435	0.511	3.403	0.0021
(Constant)	11.709	7.700		1.521	0.1400

### 考察

- Rate (ttf\_ttl) and Accuracy (ttf\_ttl) predicted nearly 57% of the variance in the pre TOEFL scores.
- There were not really enough subjects for statistical analysis to be trusted. Research must be replicated.

## 教育的示唆

英語熟達度は英語効率度である。読解の場合も聴解の場合も簡単なことばをすぐに理解できる能力は非常に重要であると思われる。すなわち、平均的な話す速度は約200 wpmなので、第二言語学習者の場合はこの速度で読めるようになると、それと同じ速度で聞き取れるようになることが予測される。

## 参考文献

- Carver, R. (1993). Merging the simple view of reading with rauding theory. *Journal of Reading Behavior*, 25(4), 439-455.
- Hirai, A. (1999). The relationship between listening and reading rates of Japanese EFL learners. *The Modern Language Journal*, 83, 367-384.
- Hoover, W.A., & Gough, P.B. (1990). The simple view of reading. *Reading and Writing*, 2, 127-160.